

## 《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの流行開始。冬季休暇明けには流行は本格化すると予想され、さらに今シーズンは長期化する可能性あり』

2015年12月29日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

### 薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) からの 2015 年第 52 週（12 月 21～27 日）のインフルエンザの推定患者数は第 49 週以降 4 週連続で増加して 30,540 となり、本サーベイランスでの基準としている 30,000 を上回って流行開始となりました。今シーズン（2015/2016 シーズン）は未だ過去 5 シーズン（2010/2011 シーズン～2014/2015 シーズン）の同時期と比較して最も低い値を推移していますが（図 1）、休日明けの第 53 週の月曜日（12 月 28 日）の推定患者数は 9,637 と前週の月曜日の値（5,746）よりも大幅に増加しており、冬季休暇明けにはインフルエンザの流行は本格化してくるものと予想されます。各都道府県別の第 52 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると秋田県、北海道、沖縄県、新潟県、富山県、東京都、奈良県、神奈川県、京都府、兵庫県、熊本県の順となっています。

2015 年第 36 週から第 52 週までの累積の推定患者数は、117,558（約 118,000 人）であり、年齢群別では 5～9 歳（14.4%）、40～49 歳（13.7%）、30～39 歳（13.3%）、10～14 歳（11.6%）、20～29 歳（9.9%）、50～59 歳（9.2%）、15～19 歳（8.8%）、0～4 歳（8.7%）の順となっています（図 2）。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（232 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型 44.8%、A/H1pdm 28.4%、B 型 26.7%の順であり、ここへきて B 型の割合が増加してきています（図 3）。

2009 年の新型インフルエンザ（現在の A/H1pdm）が発生して以降の 5 シーズンと比較して、今シーズンの患者発生の上り上がりは最も遅いものとなっていますが、第 52 週にインフルエンザの流行が開始となりました。この時期としては B 型インフルエンザウイルスの検出割合が高く、過去 5 シーズンとは異なって B 型が流行の中心となるのであれば流行のピークも例年よりも 1 か月程度遅くなり、それだけ流行が長引く可能性があります。インフルエンザの患者数の推移には今後とも注意深い観察が必要です。

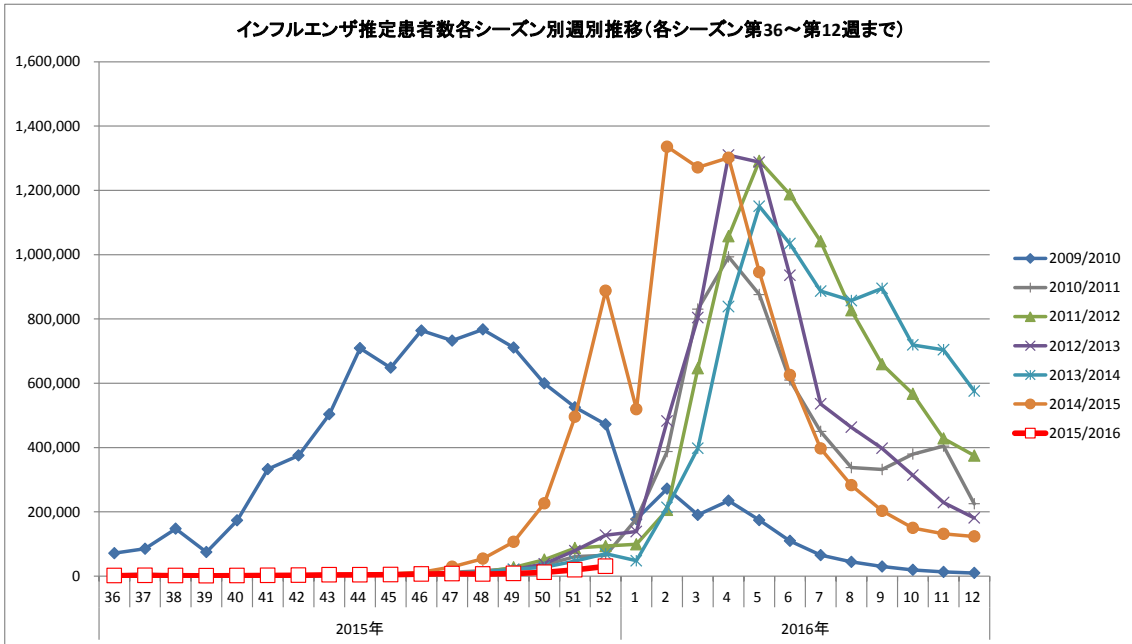


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～52 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

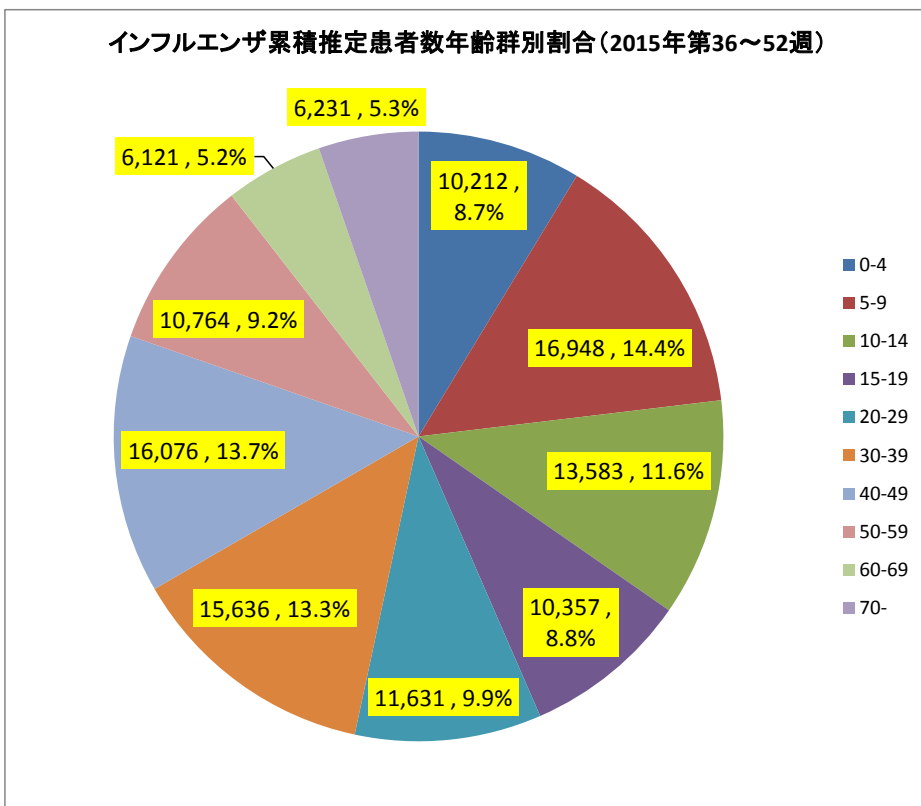


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2015 年第 36～52 週、累積推定患者数=117,558）

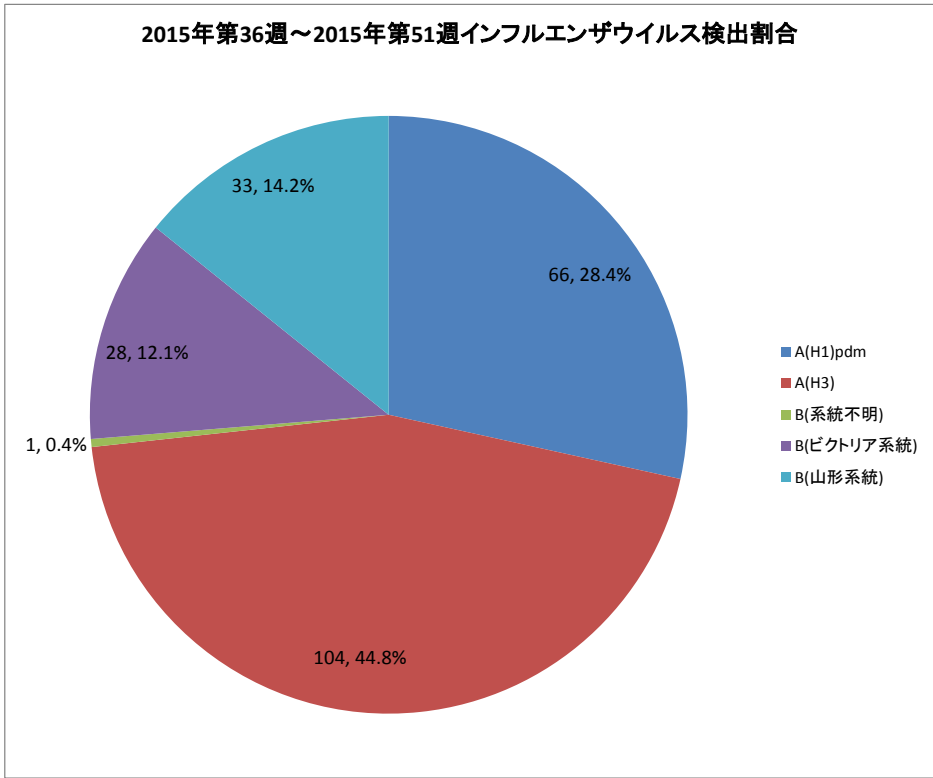


図 3. 2015 年第 36～50 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=232）